

消防 ネットin川口

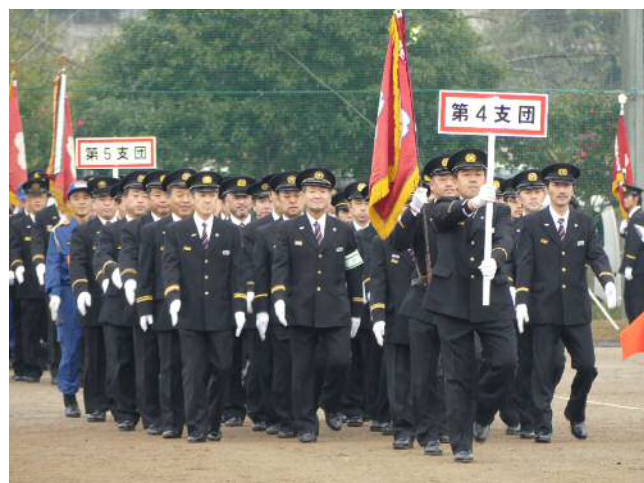
平成 29 年 3 月 31 日
第 49 号 第 50 号
合併特大号

KAWAGUCHI SHOUBOUDAN NEWS

発行者 川口市消防団活性化対策推進本部
消防団長 金子 利夫
発行所 川口市消防局消防総務課消防団事務局
電話 048-261-8102

消防団特別点検 写真で紹介します

去る 11 月 27 日に川口市消防団特別訓練が開催されました。夜中までは強い雨が降っていたのですが早朝には見事に雨がやみました。





第1支団



第5支団



第6支団



第7支団



第8支団



第9支団



第10支団



第11支団



南署隊との合同訓練

第1支団第1分団 班長 井口直也

第1支団では11月20日に南署隊との合同訓練を実施しました。日ごろ火災現場では消防署隊と一緒にありますが、あまり連携プレーをする機会はありませんでした。そこで今回は署隊との連携プレーを中心に訓練しました。まず消防隊車両から消防団車両への中継送水。そして署隊が使用しているスパコンノズルの使用法、ホースバックによるホース延長、そして署隊への援護放水などを訓練しました。初めて見る装備もあり、とても貴重な体験が出来たと思います。



また定期的にこのような訓練をすることによって、火災現場での連携プレーがスムーズにいくと考えています。

埼玉県女性消防団員大会 in みさと

第11支団第3分団部長 加藤耕誠

平成28年12月10日、埼玉県女性消防団員大会が三郷市文化会館で開催されました。サブタイトルは～女性消防団 支えあう力そして絆～。川口市消防団からは17名が参加いたしました。まずは、三郷市女性消防団アザレア分団によるハンドベルの綺麗な音色で歓迎を受け、上田知事はじめ来賓のご挨拶で会が始まりました。活動事例発表は、鴻巣市女性消防分団による「第22回全国女性消防操法大会」



で見事優秀賞を受賞した出場報告。啓蒙劇発表では、毛呂山町・越生町女性消防団による「なでしこ体操」と、坂戸市消防団の紙芝居「わすれないで！おやくそく(火災について)」が行われました。体操は「救命講習の一連の流れを体操にしながら覚えてしまおう」というのをコンセプトにしたそうです。最後に元フジテレビアナウンサーの松田朋恵氏による記念講演で幕を閉じました。各地域とても活発且



つ独創的で、女性の視点からの地域防災の啓蒙発表にたいへん感銘を受けました。今後とも女性消防団員の活躍に益々期待したいと思います。

鳩ヶ谷氷川神社おかめ市消防特別警戒実施

第11支団第3分団部長 加藤耕誠

毎年天皇誕生日の12月23日はおかめ市です。この日、第10支団は分団車庫、第11支団は鳩ヶ谷分署にそれぞれ特別警戒の詰所を設置して警備を行いました。金子団長はじめ団と署幹部もおかめ市を巡回しながら、各詰所を激励して回られました。大きな事故もなく賑やかなまま市も終わり、年の瀬を感じさせてくれます。



平成29年の始まりは、消防団のPR活動の一環として成人の日に行われる「はたちの集い」のアンケートと熱々の肉まん・あんまん配りです。今年1月9日は生憎の雨にもかかわらず、リアには大勢の新成人が集まり、用意したアンケートも肉まん・あんまんも式の開催前には無くなるくらいでした。今年の川口市内での新成人は5795人。いつも振袖の女の子たちは肉まんを手にとってからカメラを向けると、みんな可愛くポーズをとってくれます。私も個人的には、毎年ここで肉まんを配りながら、同時に自分の子供たちの成長も見送ってきました。今年、末っ子の4男に肉まんを渡して、なんか自分の区切りのような気がして嬉しいような寂しいような……。この新成人に日本と地域の未来を託せるために、我々消防団も郷土をしっかりと守っていきたいですね。



平成29年震災消防演習に参加して

第8支団第2分団 班長 小林進一

私は支団長、分団長、副分団長とともに支団本部である安行分署に参集し、無線通信員として訓練に参加しました。

支団本部では次々と寄せられる車両隊や徒歩隊からの情報を支団長指揮のもと、副分団長がホワイトボードに書き出し、その情報を支団長と分団長が整理し活動方針を決定しました。

管内の情報を確実に傍受・把握し、適切な指示を発する必要性から、支団本部に既設の無線機（屋外アンテナに接続されたもの）を支団波運用、携帯無線機1台を団本部との通信用（19CH）として運用しました。携帯無線機による団本部との通信では、通信する場所（部屋）によって送受信ができない（電波が届かない）場所があることも今回の訓練で判明しました。

このことより、支団本部の既無線機同様、携帯無線機も屋外アンテナと接続できるようになれば、より安定した無線通信を確立できると感じました。



第8支団の車庫を紹介します。

第8支団は、2分団、2つの車庫で、川口市北東部の、新興住宅地や緑あふれる畑が混在する安行地区をカバーしております。

第1分団の車庫は安行小学校の隣にあります。車庫の前の歩道も、登下校時には子供たちでいっぱいになります。2階建てで、1階がポンプ車の車庫と物置、2階は詰め所になっており、簡易な給湯室とトイレがあります。

また、車庫周りの駐車スペースには乗用車が5台程度とまれます。

第2分団の車庫は、埼玉県花と緑の振興センターと、興禅院に隣接してあります。



こちらの車庫も2階建てで、1階が車庫と物置、2階が詰め所となっており、給湯室とトイレも第1分団と同様にあります。

車庫周りの駐車スペースは、乗用車が8台程度とまれます。

車庫前の道路は大きくカーブして見通しは良くないのですがスピードの出やすい場所で、ポンプ車の出動、車庫入れの際には、安全確認、誘導に注意が必要です。

第8支団の会議は安行分署をおかりして行っております。



みんな知ってる？

第4支団第1分団 団員 田村 真一

今回は市内の消火栓の蓋、防火水槽の蓋について調べてみました。最近では〇〇女子というのがブームになっていますが、マンホールの蓋もその例外ではなく、一部の方々には「ヨダレ物」となっています。

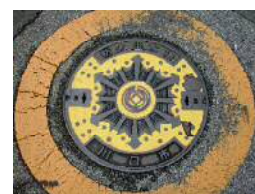
川口市内には一体どのくらいの種類があるのか、水道局や警防課に聞いたところ、消火栓については、鳩ヶ谷地区3種、旧川口市内4から5種、防火水槽は3種という回答がきました。絵柄については、水道局に行けばすべて分かるだろうと思っていたのですが、驚いたことに水道局も消防もすべてを把握しているわけではなく、施工業者にお任せとなっていました。それでは、私が暇をみては撮り溜めた蓋の数々をご覧ください。私は南平地区の住民ですので、自分の地域と青木、川口駅周辺、南鳩ヶ谷を中心に調査しました。

まず気付くのが形です。消火栓では四角いものと、丸いものがあります。防火水槽ではすべて丸型です。そして柄ですが、隊員の放水している絵や、はしご車の絵、味気のないものがあります。比較的新しいものは、個性のある絵になっているようです。



古いものはなぜ味気がないのか。それは、明治時代にヨーロッパの模様を参考に作られたからです。現在では1、飽きが来ない 2、非方向性 3、耐久性 4、素材感 5、地域個性 6、スリップ防止 の観点から模様が設計されています。(日本グラウンドマンホール協会)

消火栓の四角い蓋は、角度や向きによって落下するので、現在では絶対に落ちない丸型に変更されつつあります。長年使用すると、カタカタと音がして騒音となったり、また、耐久性や強度面からも四角より丸の方が優れていて、丸い縁（ふち）はテーパになっています。



一方、防火水槽はもの凄く似た模様が存在します。穴の位置が少しずれていたり、カギ穴の位置が入れ替わっていたりします。そして、川口市のマークが入っていないものがありました。それは、地権者や水槽の所有者などが設置した水槽に使われていました。それらについても消防と協議し、消火活動に使用していいことになっています。

日本全国の消火栓、防火水槽は黄色の線（道路のはみ出し禁止等と同じ色）で囲われています。四角い囲いや丸い囲いですが、川口市の場合、消火栓は四角、防火水槽は丸で囲うという決まりがあります。最近では、消火栓の蓋が丸に変更されつつありますが、川口市では四角い黄色線の囲いとなっています。他の市区町村ではそういった決まりがないところもあり、蓋にあわせて描いていることがあります。

ところが、川口市内には消火栓を丸、防火水槽を四角で囲われているものがありました！！これはレアです。工事業者が異なって描いてしまったものです。常備消防のシステムには、地図に消火栓や水槽がインプットされたナビがありますが、団の車両にはありません。団員の立場で言えば、夜の緊急走行中、ヘッドライトに照らされた黄色線を頼りに消火栓に付けに行ったら、水槽だったなんてことになります。

消防局では、消火栓、防火水槽の工事は施工前後の調査、検査をしています。ですから本来、線の形状が違うという事は無いのです。しかし、消防が関わらない舗装工事などがあった場合、業者は、消防へ届を出すことになっているそうですが、無届等で業者が工事をする、このようなこととなります。消防としては、線が間違っていたり、線が無い場合、見つけたら消防署や警防課まで連絡をしてもらえると助かるそうです。その後、業者に連絡し、修正してもらっています。

私が調べた地域は市内のほんの少しです。団員の皆さんが自分の地域の蓋を調べれば、まだまだ種類があるかもしれません。四角い蓋が無くなる前に、是非、みなさんが気にしてくれたら良いと思います。

新入団員紹介

新入団員の皆様を順次紹介しています



第10支団3分団 大橋 宏之

平成28年4月1日付で第10支団第3分団に入団させていただきました。

妻との結婚を機に川口市里に25年前に引っ越して来ました。祖父が消防団だったことや、里で自営業をしていることもあり少しでも地域の方のお役に立てればと思い入団を志願させていただきました。趣味のマツを活かし火災活動や人命救助にも敏速に行動できるようにしたいです。日々の訓練や研修などにも積極的に参加し次世代の手本になれるよう精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。

第10支団3分団 石田 将一

2016年1月付けで入団しました第10支団第3分団の石田です。この度は11月に行われました消防団特別点検にて新入団員代表という大役を仰せつかりました。

十数回にわたって新人向けの多様な訓練やロープ結索実習が行われ消防職員の方々、第3分団のみならず第1分団、第2分団の諸先輩方からも節度や動作のキレの付け方、敬礼での注意点や腕を素早く上げ下げを行うなど細やかでとても熱心なご指導を賜りました。さらに第11支団との合同訓練では分列行進や通常点検等などの指導も受けました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

自主練と言うほどではありませんでしたが、普段時間の空いたときには復習を心がけていました。私のみならず、一緒に訓練を受けた同期団員皆が意識高く練度高く万全な状態で本番を迎える事が出来たのではないかと思います。

まだまだ覚える事はたくさんあるかと思いますが、一人前の消防団員になれるよう精一杯努力していきたいと思っています。



【編集後記】

第1支団第1分団 班長 井口 直也

団ネットの発行が大幅に遅れ大変申し訳ございませんでした。今回は合併号としてボリュームのある内容となっております。団ネットでは皆様からの原稿も広くお待ちしております。各支団の行事にも取材に伺いますので、広報推進委員さんにお声がけ下さい。

次号は6月下旬 発行予定です

